

カトリック

# 広島教区報

No. 110

カトリック  
広島司教区

発行責任者  
広報担当  
服部大介神父

「点訳版」あります。  
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42  
広島司教区内  
TEL (082) 221-6017

白浜司教メッセージ・じゃけえのう・教区の動き  
世界平和記念堂・青年大会  
平和行事・典礼の窓・JICA R M 広島便り  
地区・海峡からの風・広島教区の施設  
青少年・ひと粒

一〜二面  
三面  
四〜五面  
六〜七面  
八面

## 世界の平和のため

### 聖母マリアとともに祈る

アレキシオ 白浜 満 司教

#### 【祈る使命に生きる】

今年も「平和旬間」（八月五日〜十五日）中、広島教区では、とくに八月五日〜六日、九日を中心に、平和のための祈りや種々の活動が行われました。準備の段階から奉仕して下さった方々、また当日、参加して下さった皆さんに、心から感謝申しあげます。本当にどうも有り難うございました。

ご存知のように、広島教区では、主イエス・キリストが教会に託された、おもに三つの使命を思い起こし、その使命によりよく生きるための刷新にチャレンジすることを申し合わせています。二〇一七年度には、とくに「祈る使命」にスポットを当てながら、取り組んで行くことにしています。その一つの具体化として、平和行事に合わせて「広島教区の祈り」の小冊子

を作成し、皆さんに配布しました。九月にはその英語版も出ています。

どうか皆さん、個人的にも共同体としても、これらの祈りを活用し、広島教区が「平和のための使徒」としての召命を生きていくことができるよう、祈り続けていただきたいと思えます。

#### 【世界平和のために】

最近の世界情勢を眺めてみると、いろいろな地域で、また種々の形態（内戦、テロ、核実験など）で、いのちや平和が脅かされる事態が頻発しており、世界平和のための祈りと、和解のための活動が切実に求められていることを痛感します。こ



各教区を巡回している  
ファティマの聖母像（複製）  
撮影：秋田教会

## じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

広島に初めて来たのは、五十五年前、まだイエズス会の神学生だったころです。その後、司祭になったから二十年ほど広島教区で活動しましたが、ほとんど教育施設の中でした。今世紀に入って、二年前から八月の一ヶ月だけ鞆町を拠点にして広島地区司祭団のミサ当番などの仲間として迎えられるました。▼特に去年の「いつくしみの聖年」に際して、鞆町、岩国、廿日市、三原、福山を歴訪できたことは思い出に残り、私自身の信仰を深める機会となりました。それぞれの小教区の参加が積極的で、広島教区の熱心さをはっきり感じ取れました。八月なので、平和行事はもちろん、鞆町教会中心に他の活動も多く行われます。とくに印象が深いのは、教区の広範囲から集まった五十名ほどの若者の合宿（青年大会）でした。（夕方のバーベキューは美味しかった!）その他、教区の練成会も倉敷で行われました。青年大会ことが「カトリック新聞」の四四〇〇号で記

事になり、他教区にも青少年の活動の模範として紹介されました。▼今年の八月六日は日曜日にあたり、「主のご変容」のミサで話したことを書き記しておきます。人間が作る恐怖を極める兵器が「ピカ」と光って、「ドン」と音を立てながら何十万もの人生を一瞬に奪ってしまえますが、ご変容のイエスのまばゆい姿に主の「本来の明るさと温かさ」が現れ、イエスと、また私たちに對して「これは私の愛する子」という御父のやさしい声が聞こえてきます。人間の「ピカ・ドン」と全く違う「光と声」です。同じ天の父の子ども同士は、どうしてお互いの人生とこの地球を大切にしてお互いに暮らせないのか不思議に思い、平和旬間の最後の「聖母の被昇天の日」に、神の栄光に迎えられたマリア様に、母の心で人間同士の小競り合い、殺し合いを一日も早く止めないように神に取り成してくださいと祈りました。（イエズス会司教  
ロバート キエサ）

を巡回させ、聖母マリアの取り次ぎを願いながら、世界平和のためのミサや祈りの集いが行われてきました。そして幸いなことに、教皇大使はこのファティマの聖母像を広島の世界平和記念聖堂に寄贈することを決定されました。その寄贈式が十月二十五日、十八時からささげられる「世界平和祈願ミサ」の中で行われることになっています。これは、平和の使徒としての召命を生きるように、という広島教区への神様からの激励であり、キリストとともに「祈る使命」を生きる鑑である聖母マリアを思い起こさせる贈り物です。

広島教区では、寄贈していただく聖母像を、来年の五月十三日（ファティマの聖母の記念日）までの間、教区内の三地区（十二協働体）を巡回させ（↓詳細は、下記「教区の動き」平和の使徒推進本部）、協働体ごとに「祈りの集い」を開いていただく予定です。この「祈りの集い」への参加を通して、わたしたちは平和の使徒として祈る使命を遂行していきたいと思えます。

**【感謝のための巡礼】**

また本当に嬉しいことに、

この八月終わりに、わたしはファティマ教区の司教様から、広島教区の司教であるということの故に、来年の十月十二日と十三日にポルトガルの巡礼地ファティマに来て、ロザリオの祈りの集いに参加し、ミサを司式するよう、依頼を受けました。

わたしはこの招待に応えるため、また、教皇大使からのファティマの聖母像の寄贈の恵みに感謝するため、来年の十月十二日と十三日を含む前後約一週間、広島教区内の信者を対象にした巡礼旅行を企画したいと思えます。

現在、この巡礼の準備をしていますので、詳細が決まり次第、皆さんにもお知らせし、参加者の募集を行うつもりです。

どうか皆さん、父の右にあつて今も人類のために執り成しておられる主イエス・キリストとともに、「天の元后」・「教会の母」としてすべての人の救いのために祈り続け、助けの手を差し伸べておられる聖母マリアを、わたしたちの「祈る使命の鑑」とすることができるよう、この一年を過ごしていきたいと思えます。

**教区の動き**

平和の使徒推進本部

**「広島教区の祈り」小冊子と教区百周年に向けてのロゴマークを作製しました**

教会へのチャレンジ「祈る使命」を推進する一つの手段になるように、このたび、既存の祈り（一部若干の修正）に、新たに作成した祈りを追加して、五つの祈りを「広島教区の祈り」として小冊子にまとめました。教区民一人ひとりがこれを携帯し、ミサの前後や家庭での日々の祈りの際に、是非、お使いいただければ幸いです。この小冊子を活用して、「祈る使命」にチャレンジしていきたいと思えます。

また、小冊子には教区創立百周年に向けてのロゴマークも印刷してあります。広島教区固有の目標である「平和の使徒」のシンボルである鳩「A（はじめ）」とΩ（おわ



「広島教区の祈り」日本語版と英語版

り）が記された書物」は神の御子イエス・キリストがのべ伝えた「福音」を示しています。そして、背後に描かれた円は「愛である神」、その現れである聖体の秘跡（ホスチア）、それをいただく「教会の一致」をイメージしています。

このロゴマークは平和の使徒推進本部ホームページからもダウンロードできます。祈りの小冊子とともにご活用ください。

**ファティマの聖母像（複製）が広島教区に寄贈されます**

ポルトガルのファティマにおける聖母出現百周年にあわせて、日本の教会のため、教皇大使チエノットウ大司教の主導で、複製のファティマの聖母像（木製）がポルトガルで製作されました。そして、聖母の取り次ぎを願って世界平和を祈るため、現在、日本

の各教区を巡回しています。広島教区が最後の巡回地となりましたが、教皇大使の意向で、「世界平和のために祈るように」というファティマの聖母のメッセージにゆかりが深い、広島教区の世界平和記念聖堂に寄贈されることになりました。そのために寄贈式を含めた「世界平和祈願ミサ」が十月二十五日十八時より、世界平和記念聖堂でささげられます。教皇大使や司教様方も参加される予定ですので、是非、皆さんにもご参加いただきたいと思えます。その後、ファティマの聖母像（複製）は、広島教区内三つの地区を巡回します。今年度のモットーである「祈る使命」を推進していくため、十二協働体ごとに世界平和のための「祈りの集い」が行われていきます。教区民の皆さん、聖母像の巡回に合わせ、「祈りの集い」に参加しましょう。また、その締めくくりとして、二〇一八年五月十三日（ファティマの聖母の記念日）十六時より、世界平和を祈るミサがささげられ、ファティマの聖母像が、最終的に世界平和記念聖堂の一角に設置されて、永久保存されることとなります。



\*二〇一七年十月二十五日  
十八時より世界平和記念聖堂  
にて、世界平和祈願ミサ（寄  
贈式）

\*各地区への巡回は、十月  
二十八日〜岡山鳥取地区、  
二〇一八年一月六日〜山口鳥  
根地区、三月末頃〜広島地区  
の予定です。各地区内の巡回  
予定は、地区センターへお尋  
ねください。

\*二〇一八年五月十三日  
十六時〜世界平和祈願ミサ  
（設置式）

**「教会へのチャレンジ」ポスター募集について**

第二段階「教会へのチャレ  
ンジ」の三年間（二〇一七〜  
二〇一九年度）を有意義に過  
ごし、また、諸活動を活性化  
させていくためにポスターを  
募集します。

・募集締切日は、二〇一七年  
十一月二十日（月）消印  
有効です。

・一般の部、子どもの部があ  
ります。

・『教会へのチャレンジ』の  
文字を必ず入れて制作し  
てください。

・詳細は、各小教区に配布の  
募集案内、または、教区  
公式ホームページ／平和  
の使徒推進本部にてご確  
認ください。

**重要文化財  
世界平和記念聖堂  
記念聖堂の外壁補修  
工事に着手**

司教座聖堂「世界平和記念  
聖堂」の耐震補修工事は、昨  
年十一月の白浜司教の司式に  
よる工事安全祈願祭から一年  
を迎える。現在は、第二期工  
事として、外壁補修工事、大  
屋根銅板葺き替え工事、小玄  
関と鐘塔の鉄骨による耐震補  
強工事、祭壇上部のドーム天  
井の改修工事を行っている。  
聖堂が仮設足場と養生シート  
で覆われ、見慣れた聖堂の姿  
が当分は見られない。本祭壇  
が置かれた内陣も、ドーム天  
井まで仮設足場と工事用の  
シートで覆われ、内陣奥のモ  
ザイク壁画（再臨のキリスト  
像）も信徒席から見ることが  
出来ない。主日のミサに來ら



屋根銅板葺き替え工事

れた信者の中には、普段と違  
う仮設の祭壇を見て戸惑われ  
た人もあった。

七月から、外壁のレンガ壁  
の裏にあるコンクリートの強  
度を確認したり、外壁の補修  
材の性能試験、仕上げ材や仕  
上げ方法の再現試験など詳細  
な検討を慎重に行ってきた。

このほか、ファイバースコー  
プによる雨水排水のための豎  
樋の内部調査も行った。聖堂  
は外観のデザインを重視し  
て、豎樋をコンクリートの柱  
やレンガ壁の中に設けてい  
る。豎樋が詰まったり、亀裂  
が生じると雨水が浸み込み、  
コンクリートの劣化が進む。

補修計画の時点で予知するこ  
とが困難であった。これによ  
り工期の遅れと工事費の増額  
が懸念される。来年の復活祭  
までに外部足場の撤去が出來  
るかどうかは祈るばかりであ  
る。

以上の調査などを通して工  
事前には想像もなかった建  
設時の工夫も知ることも出來  
た。鐘塔二階の外壁面に打ち  
込まれた聖堂記がその一つで  
ある。東側のラテン語の聖堂  
記は、コンクリートの壁にラ  
テン文字を型抜きして作られ  
ていた。一方、西側の日本語  
の聖堂記は、コンクリート

の壁に一字づつ文字を彫り  
込んで作られていた。ラテ  
ン語と日本語のそれぞれの  
文字の特徴を活かした制作  
方法であった。日頃、何気  
なく見ている聖堂記である  
が、細かいところに気を配  
り、記念聖堂の建設の意義  
を後世に伝えようとしてい  
たのである。設計者である  
村野先生の細かな気配りに  
感心するばかりである。建  
設当時の関係者の努力にも  
頭が下がる。この意味から  
も、聖堂を長期に保存し、  
建設の意義を多くの人に伝  
えることが私たちに課せら  
れている。

なお、以前から課題と  
なっていた幟町教会の事業  
費負担については、教区の  
顧問会議で幟町教会が聖堂  
保存のために準備してきた  
二億円を引き当て、残り

を教区で負担することに内  
定した。引き続き、教区の  
皆様には、司教座聖堂の保  
存のために、ご理解、ご支  
援、特に募金活動への協力  
をお願いします。

**広島教区青年大会  
二〇一七**

八月十三〜十四日、幟町  
教会にて二〇一七年度広島  
教区青年大会が開催され  
た。「シュツパツ、シンコ  
ウ！」という今年のテー  
マのもと、広島教区の青年  
を中心に、五十名ほどの  
参加者が集い、レクリエー  
ションなどのプログラムを  
楽しんだ。各マスに聖書箇  
所を振り分け、聖書の物語  
を味わいながらコマを進め  
る「信仰ゲーム」や、たく  
さんのビー玉の中から羊の  
描かれたビー玉を探す「羊  
さがしゲーム」などを通し  
て、チームごとに「信仰ポ  
イント」を集めて競った。

夜からは白浜司教も参加さ  
れ、祈りや夕食のバーベ  
キューの時間を青年と共に過  
ごされた。翌朝のミサは白  
浜司教に主司式をしていた  
だき、参加者たちは大会の  
締めくくりとして良い祈り  
の時を持てたであろう。

**世界平和記念聖堂募金  
郵便振替口座**  
口座名義：カトリック広島司教区  
口座番号：01320-3-109791  
\*通信欄に「聖堂保存献金」と記入し  
てください。

二〇一七年  
八月平和行事を終えて

今年のテーマは、フランシスコ教皇様の回勅「ラウダー・ト・シ」を受けて、『「ラウダー・ト・シ」(私の主よ、あなたはたまたえられますように)』とともに暮らす地球で』として地球環境問題を取り上げた。



松浦司教、イ・ジェドン神父、光延神父

五日の最初のプログラムであるシンポジウムは、名古屋教区長の松浦司教、上智大学教授の光延神父、韓国のカトリック生環境委員会総務のイ・ジェドン神父の三名によるパネルディスカッションとした。フランシスコ教皇から示された、「現代の我々が直面している最大の問題は環境破壊と貧困である」との見解に基づいて、どうしたら私たちがこの課題を克服できるか討論していただいた。ここ数年韓国からの参加者が増加し

てきており、韓国の神父にもパネリストとして入っていただくことで、より連帯を強めることをねらった。核兵器禁止条約の発効という歴史的な局面の一方で、日本では条約への不参加、かつ福島事故の収束も見通せない状況で、原発の再稼働が相次いでいる。また北朝鮮の核開発の加速と相次ぐ核実験の強行もあり、日本の核をめぐる環境は厳しくなっている。こうした中で、三人の方のお話は、非常に時宜を得たものだった。分科会は、被爆証言、脱部分会、子どもプログラム、ユースプログラム、ビデオ上映の五つが行われた。

被爆証言は、原爆投下から七十二年経ち、証言していただけの被爆者を探すのが難しくなってきた。そのような状況であるが、観音教会信徒の朴南珠さんに今年もお話していただくことができ、大勢の参加があった。韓国語の通訳もあり、韓国から来た多くの若者もこの分科会に参加し、原爆の悲惨さを知っていただくことができた。



平和行進の先頭を行く、バチカン諸宗教対話評議会次官キグソット司教(左端)

脱核部会では、福島事故被害による人権問題を取り上げ、各地で脱原発や核問題に取り組んでいる方々の参加のもと、熱心に討議が行われた。子どもプログラムでは、元小中学校長の石川律子さんに紙芝居

で原爆の話をしていただいた。青年プログラムは、二年ほど前から始めたプログラムであるが、教区内の青年やノートルダム清心高校の生徒などが参加し、白浜司教様のリードで活発な話し合いがあった。また、今後被爆証言に代わる分科会のトライアルとしてビデオ上映を行った。被爆証言を聞いたことのない人には、被爆証言を聞いてもらったために、参加者は数名ほどであった。二、三年後には、被爆証言が行えなくなることは確実で、被爆の実態をどのように次世代の若者に伝えていくか、過去の証言の録画からビデオ製作するなど教会としても対応を考える必要がある。分科会に続いては、今年も日本日本聖公会神戸教区と合同で平和公園の原爆供養塔前での祈りの集い、それに続く世界平和記念聖堂までの平和行進が行われた。



フィローニ枢機卿

フェルナンド・  
フィローニ枢機卿、来広

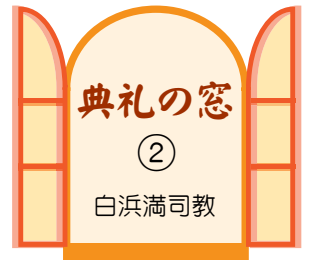
「広島、その新しい名前は平和です」

九月二十日(水)、バチカン福音宣教省長官フェルナンド・フィローニ枢機卿が広島を訪れた。

枢機卿は、広島カトリック会館多目的ホールでの広島教区司祭、信徒、修道者と対話集会で、広島教区には、特別な召し出しがあり、被爆地から平和を願う平和の教区であること、また、今も新しいこのゴルゴダで十字架に架けられ続けている、キリストをもっと知り、キリストが宣言した神は、平和の神であることを訴えていかなければならないと述べた。

対話集会の後、当日の聖アンデレ金と同志殉教者のミサが行われた。白浜司教の司式で、約三十人の司祭を含む三百人がともに祈りを捧げた。





シリーズ「典礼の窓」では、白浜司教による典礼の解説を掲載します。

前回の典礼の窓では、広島教区の三地区の代表司祭から構成される典礼委員会の発足について、お知らせしました。また、今後は、これらの委員が各地区において、「聖体授与の臨時の奉仕者」と「司祭不在の時の集会祭儀の司会者」の養成の責任を担っていくことについてお伝えしていました。「教会へのチャレンジ」の段階を過ぎ、これからの地区の典礼分野における連携を推進していきたいと思えます。そのため、教皇フランシスコが求めている「寄り添う教会」のあり方を具体化する一つのチャレンジとして、高齢化する信者への司牧的配慮に力を注いで行きたいと思えます。現在、各地区で「聖体授与の臨時の奉仕者」の方々が、小教区の司祭の指導・要請のもとに、高齢や病気などのため、ミサに参加できない信者に聖体を運んでくださっています。また、適切な時に

司祭に連絡して、ゆるしの秘跡や病者の塗油の秘跡を授けていただく仲介者の役割も果たして下さっています。そして、この奉仕者の方々は、孤独や不安を感じておられる高齢者や病者を慰め力づけ、霊的にも物的にも社会的にも、必要な支援の手を差し伸べる同伴者としての奉仕が日増しに求められつつあります。これから、三地区の奉仕者の皆さんの活動をサポートしていくため、聖体を授与するとき用いる教区共通の儀式書を作成し、また、高齢者や病者に喜ばれるよいよりサポートのあり方を学び分かち合って養成講座を向上させ、そして、できれば「高齢者・病者への同伴の手引き」(仮称)の作成に向けて、チャレンジして行きたいと思えます。どうか、皆さんご協力、よろしくお願いたします。

本の紹介



烏賊墨の一筋垂れて冬の弥撒  
〜万葉神父の日々は好日々〜

前田万葉大司教 著

発行：かまくら春秋出版  
電話 0487-25-2864

前田大司教は、1988年〜2009年の教会報を中心に、対談や講演、執筆など、多くの著書がある。本書は、その中でも、司祭としての経験や、信者への愛を綴った、温かい言葉で、温かく、厳しく、福音を伝える前田大司教の、57歳〜75歳の「五七五便り」のほか、講義や対談、執筆、追悼、偏見に遭う中、堅く信仰を守り続けた長崎・五島列島の末裔である大司教が語る、貴重な一冊。

J-CaRM 広島便り  
ユニティ岡山鳥取活動報告  
水鳥教会 三宅哲子

岡山鳥取地区では二〇〇九年度より「ユニティ岡山鳥取」の愛称でJ-CaRMの活動に取り組んでいます。私たちは「在住外国人共生支援の窓口」として、地区の外国人の方々と共に、よく生きることを目指して、岡山鳥取地区のカトリック教会案内(英語・ポルトガル語・ローマ字版)を作ったり、いろんな国の郷土料理(フィリピン、ベトナム、ブラジル、日本料理など)を楽しむ会、日本語教室、茶道教室、英語ミサ支援、在住外国人の方々が抱える問題について専門の講師を招いての学習会などを実施してきました。昨年と今年には特に外国人技能実習生が置かれている現状の問

題点について二回の学習会を開きました。私たち日本人が、私たちの国の技能実習制度に関心を持って学び、彼らが抱えている問題を少しでも良くしていきたいようにしたいと考えたからです。今、どこの教会にもベトナム人の青年たちが増えていきます。彼らは日曜日に仕事がない限りミサに熱心に参加します。日本語習得への意欲も高いです。日本語教室を通して親しくなると、いろいろな困りごとを話してくれます。労働条件は驚くほど悪いことが多いです。深刻な問題が起こる前に適切な相談窓口につなげることができるよう、日頃から彼らとつながりをも深めていきたいと思えます。非力ですので、教会につながっている人だけしか関わられません。一人でも多くの人と交わることができればと願います。

ユニティ岡山鳥取が二〇一〇年から続けている活動がもう一つあります。毎年八月十五日のマリア様の被昇天祭にゆかたを着て参加する楽しい行事です。「ゆかたDAY」と呼んでいます。今年も四十人余りの青年たち(男性も女性も、フィリピン人もベトナム人も、もちろん日本人も)が好みの浴衣と帯を選んで着せてもらい、岡山教会周辺を英語、ベトナム語、日本語

でロザリオの祈りと「あめの后」を歌いながらの聖母行列の後、これまた英語、ベトナム語、日本語を交えた被昇天ミサにあずかりました。私たちの水鳥教会からはベトナム男性三人、女性三人と日本人二人が参加しました。六人のベトナム人のうちカトリック信者は二人だけでした。初めてのミサの感想を聞くと「きれいな祈りでした」と答えてくれました。

今年度は英語とベトナム語の黙想会も計画しています。外国人が住みやすい国は日本人も住みやすい国！キリストの平和が私たちの心の隅々にまで行き渡りますように！



地区便り

山口島根地区

\*二〇一七年度「広島教区の日」

九月十八日(祝・月)、山口教会で「山口島根地区大会」と「広島教区の日」が行われた。三年に一度、三地区の持ち回りで開催されている「司教叙階記念・ダイヤモン・ド金銀祝」は、今年から「広島教区の日」と名称を変えて行うことになった。今年、それに併せて同日に山口島根地区大会も開催された。午前は地区大会が行われ、幼稚園からは可愛い園児の合唱、劇、ゲームなどの出し物、サビエル高等学校のチャールミングな明るい合唱、



山口教会 (サビエル記念聖堂)

萩光塩学院からは力強くはじけるような書道パフォーマンス、フィリッピングループのパワーあふれるダンスが披露された。

午後から「広島教区の日」が行われた。セレモニーの中で、平和の使徒推進本部企画でダイヤモンド金銀祝の表彰が行われた。また、教会巡礼スタンプラリー表彰式、Sr.山本の作詞作曲の教会へのチャレンジのテーマソング「主に託されたから」の披露、原田神父による平和記念聖堂耐震募金案内などが行われた。ミサでは白浜司教をはじめ司祭、助祭、修道者、信徒四百五十人余りがともに祈りを捧げた。ミサ後、祝賀会が行われた。

\*萩流配者の顕彰ミサと講演会

日時：十一月十一日(土)  
場所：カトリック萩教会  
講演：川村信三 神父  
ミサ：白浜 満司教

広島地区

\*第二十二期『聖体授与の臨時の奉仕者』任命式

日時：十一月十二日(日)  
九時半  
場所：カトリック鞆町教会

講師：白浜 満司教

\*「広島地区女性連合会 キリシタン殉教地巡礼」

場所：岩手、宮城方面  
日程：十一月十三日(月) 十五日(水)

一日目：後藤 寿庵廟↓ケルス場墓地・ケルス場橋↓毘沙門堂/二日目：大籠キリシタン殉教公園資料館・大籠殉教記念ケルス館↓地蔵の辻↓首実験石↓祭畑刑場↓保登子首塚↓トキゾー沢刑場↓ハセ場 首塚/三日目：海無沢三軒塚

\*「信仰継承」くすまに愛されているから」地区教会リーダー会

日時：十二月二日(土)  
十時~十五時  
場所：カトリック三篠教会  
講師：ミサ：片柳弘史 神父

伯雲ブロック

\*リントホルスト神父様の追悼ミサ

九月二日、出雲教会を会場にしてトマス・リントホルスト神父様の追悼ミサが萩・深堀・後藤・ミカエル金神父様方の共同司式であり、出雲の信徒を初め松江など六十名余りが参列しました。

リントホルスト神父様

海峡からの風 46

下関労働教育センターだより

外国人にとって日本の病院は？

平和のこと、原発のこと、辺野古・基地問題のこと、憲法のこと、解散は戒厳令への布石では等々、書くべきことが山の様にあると、逆に書けない凡人です。

そこで逃げで、個人的に最も力を入れていたケニア・スラムの寺子屋の学校支援に関して書くことにする。

ナイロビのケベラスラムにあるマゴススクールでは学校に行くことのできない五百名以上の子供たちが共に学び、給食を食べ、その周辺に何十人も職員・家族・卒業生が関わり、生活している(Hp:mgosojd)。

その学校の教頭先生がこの春、講演・交流のため来日したのだが、現地ですべりした下腿の骨折が全く治っていない状態で、急遽私の勤める病院で入院・手術となった。

病院スタッフだけでなく、多くの方々が協力してくださり、リハビリも順調で、元気に帰国された。

実際に向き合ってみて、表面的には経費の問題が大きいのしかかってきたが、病院の高配で生活困窮者支援を受けることができ、多くの仲間の支援とカンパで、なんと

かカバーできたが、それ以上に滞在中のコミュニケーションの面での苦労が大きかった(恐らく彼自身も)。

昨今の外国人技能実習制度で様々な国から外国人労働者がやってきており、英語では対処できない方も増えている。地方都市、あるいはもともと田舎においては、現場での通訳の問題を痛感する場面が日常の診療においても増えてきた。

日常会話はスマホ等のアプリがかなりカバーしてくれるのだろうが、専門的な言葉が多くなるインフォームドコンセントの場面や、急変時、痛み等の症状が強い時や興奮時には、厳しいものがある。

今回も全身麻酔覚醒時の不穏時には全くコミュニケーションが取れず、スワヒリ語が喋れる仲間が電話で話してもらって、ようやく少し落ち着いたことを経験した。

この問題は医療分野のみならず、法曹分野等専門用語が機微となる場合に顕著となるのである。

偶々友人が学位論文で「外国人の日本の病院体験」を中心にまとめるとのこと。良い示唆を与えてくれることを期待してやまない。(大城研司)



は一九八一年から六年間と一九九六年から四年間の合計十年間、出雲教会を司牧され、信徒活動の組織的活性化と教会建築にあたり先見性計画性をもって指導なさいました。また、信徒には質素な生活と慈愛の眼差しで模範的に、常に何よりも主に従うべきことを後姿でお示しになりました。

なお、当時別々の地区にいた米子・境港、松江、出雲が伯雲ブロックとして兄弟的にまとまり、具体的には雲南市三刀屋町の永井隆博士追悼平和祈念ミサを行政と共に進行的に指導していただきました。



出雲教会での追悼ミサの様子

岡山鳥取地区

\*青年たちの夏

七月九日(日) 十三時半より、岡山教会にて、岡山鳥取



尹兎榮神父を囲んで 右、シスター三宅

地区の青年を対象に、尹兎榮神父司式のもと、ミサを行いました。突然の呼びかけにもかかわらず、七人の青年が集まりました。それぞれが自発的に聖歌を決めオルガンやギターに務め、朗読を分担し、みなが何らかの役割を持つ素敵なミサになりました。

土日に働く青年も多く、なかなか日曜日にミサに出ることも叶いません。とはいえ、こうして同年代の仲間が集まるミサは格別で、よりイエス様を近くに感じられました。

教会スタンプラリー完了

- 第0028号  
萬 博義 (祇園教会)  
萬 頼子 (祇園教会)
- 第0029号  
濱口直樹 (岡山教会)
- 第0030号  
青山文代 (水島教会)

カトリック神学学会  
カトリック教育学会  
広島で開催

九月三日～四日に日本カトリック神学学会第二十九回学術大会(総合テーマ「環境と平和」)が世界平和記念聖堂や広島カトリック会館(幟町教会)を会場に開催された。「『回勅ラウダート・シ』の意義とは?」というテーマで瀬本正之神父(上智大学教授)の基調講演から始まり、白浜司教司式の記念ミサ、各研究発表が行われた。

また、九月八日～十日の三日間にわたり、日本カトリック教育学会第四十一回全国大会(テーマ「平和を希求するカトリック教育」)がエリザベト音楽大学で開催された。全国からカトリック学校の教職員を中心に七十名ほどが集まり、それぞれの研究発表に耳を傾けた。歴史研究家の森重昭氏を招いての基調講演は、近隣の教会関係者にも開かれ、広島教区から多くの信徒が訪れた。大会ミサの司式は白浜司教で、幟町教会地下聖堂にて行われた。

広島教区の施設 35  
**エリザベト音楽大学**  
理事長・学長 川野祐二

音楽をとおして私が変わり

世界を良くする人になる

本年八月二十五日、ドイツのハーノーファーの教会で行われた学生の演奏に対して、スタンディングオベーションによる称賛が起こりました。翌日ベルリン公演でも、約千二百名の聴衆による鳴りやまない拍手。創立七十周年記念事業として、合唱団及び管弦楽団は初めて海外公演を行い、感動を沢山経験して帰国しました。

音楽をとおして広島の人々の心を癒し、恒久平和に寄与する音楽人の育成を目的に、創立者E・ゴージェン神父(イエズス会、ベルギー出身)が、一九四八(昭和二十三)年四月に県立広島音楽学校を設立したのが本学の歴史の始まりです。

昨年校舎を建て替えました。カトリックの音大らしく、通りに面したガラス全面にグレゴリオ聖歌の楽譜を刷込みました。この建築デザインに対して、第九回ひろしま建築文化賞大賞を受賞しました。

地域社会と国際社会への貢献への取組みとして、来年八月に、アジアとオーストラリアのカトリック大学の学長・教職員及び学生約百五十人の研修会議(ASEACC)を本

学で開催します。広島大学ゆえに平和発信への期待が高まっています。創立者の故国ベルギーとの交流、アジア諸国の協定校との交流演奏会も増えています。

来年は特別な演奏会が白押しです。さらに七十五周年に向けて、毎年フランス語の宗教合唱曲を委嘱し、大学独自の聖歌集を作製したいと考えています。宗教音楽教育に特色のある本学ならではの試みです。

少子化に伴い、学生募集は苦戦が続いていますが、学生が高度な教育を受け、充実した学生生活を送り、満足感をもって卒業するよう努めています。多くの方のご推薦をよろしくお願いいたします。過去のイエズス会理事長による将来を見据えた経営により、大学は財務面での心配は全くありません。今後も積極的な大学運営を行う所存です。



# 青少年の活動

## 広島教区練成会

わたしはあなたの名を呼ぶ

八月九日～十一日にかけて教区練成会が倉敷教会で行われました。教区中から四十九名の子ども達が集い三日間を一つのテーマ「わたしはあなたの名を呼ぶ」(イザヤ四十・一)につい



### 「先人の遺産の上に」

祇園教会助任 作道宗三神父

司祭として、はじめて司牧の現場に派遣されて一年半、思いつくままに、過ぎ越し日々を振り返ってみたい。昨年一年は、試用期間だったのか、最低限の務めを果たすだけ、静かに聖書を読み、勉強をし直し、信徒の方々と分かち合うという、恵みの日々を送らせていただいた。二年目に入り、多少仕事が増えたことはあるが、基本的に同じようなペースで一日が過ぎてゆく。

て、分かち合い、召命について考えるきっかけになったと思います。

閉会のミサの中で司教様の子ども達に「楽しかったですか？来年も参加したいですか？」と問いかけられた際の子ども達の「はいー」という大きな返事がとても印象的でした。また、解散の間際にある男の子が私に尋ねてきました。

### 「先人の遺産の上に」

祇園教会助任 作道宗三神父

長年、学校関係の仕事をしていたため、教会で働く神父様方、信徒の方々とゆっくり触れ合う機会に恵まれなかった。しかし、小教区に身を置くことで、幼稚園に通う園児や、教会学校の子どもたちから、青年のグループ、結婚を控えたカップル、教会を支えている決して若いとは言えない活力にあふれた壮年たち、はたまた、向学心の衰えない後期高齢者の方々まで、いろいろなる年齢層、背景の方々と出会うことができ、「旅する神の民」である教会を、より一層強く実感している。

教会は建物ではなく、人である、と言われる。しかし、壮大で圧倒するようなヨーロッパの

「神学生になるにはどうしたら良いの？」

その質問に私は感動と感謝で涙しそうになったことを覚えています。

練成会はその合宿ではありません。ただ楽しいだけではありません。練成会には神様を身近に感じ、心の深みに語られる呼びかけを子どもなりに感じ、味わう場です。参加する子ども、

### 「先人の遺産の上に」

祇園教会助任 作道宗三神父

教会を見ると、やはり、人を入れる器も疎かにできないことに気づかされる。翻って、わが祇園教会のことを考えると、今時珍しい畳の敷き詰められた現聖堂ができたのが五十年以上も前のこと、事務室を含む司祭館も四十年を超える木造建築である。必要最小限の補修を重ねながら、もっぱら宣教司牧に専念して来られた歴代司祭方にあらためて頭が下がる思いである。

広島教区は教区創立百周年を六年後に控え、昨年着座された、若く元気いっぱいな白浜司教のもと、新たな力を得て教区の再生を目指して一丸となつて歩んでいるが、教区が抱える問題は決して小さくはない。しかし、問題の多き・大きさを憂える前に、まず心に刻むべきことは、教区全体、さらには、日本

運営するスタッフ、陰で支えてくださる教会の信徒の皆様、練成会の為に祈ってくださる教区中の信徒の皆様、そして神様の恵みがあつてこそ、他の合宿にはない独自性が発揮されま

す。今回の練成会で数名の子ども達が召命の道を真剣に考え、話してきました。将来、この子ども達から司祭、修道者、そして家庭で

### 「先人の遺産の上に」

祇園教会助任 作道宗三神父

の教会が、どれほど多くの宣教師や修道女の力によって支えてこられたかということである。広島教区は、ほぼ百年前に、当時の大阪教区の西半分(中国五県)を統括する広島代牧区として始まった。司牧の任にあつたのは、パリ外国宣教会の後を継いだイエズス会ドイト西管区のミッションである。教区内の小教区のルーツを辿ると、そこには、必ず、宣教師たちのひたむきな姿が現れる。今では、淳心会、ミラノ外国宣教会、韓国釜山教区等の司祭方が、減少したイエズス会員の穴を埋める形で、教区司祭方とともに、広島教区で司牧にあつておられるが、先輩方が耕し、種を蒔き、育てられた広島教区で共に働く恵みに感謝し、未来を開く主の霊に信頼して歩んでゆきたい。

は、教区全体、さらには、日本

召命を生きる信徒が生まれるのかと思うと楽しみみです。

今年の練成会も皆様の物心両面のご支援、何よりも祈りの支えによって無事に成功を収めることが出来ました。本当に感謝の念に堪えません。何より、倉敷ブロックの教会、信徒の皆様には格別な心遣いを頂けましたこと、本当に感謝いたします。

(久保裕己神学生)



倉敷教会聖堂で



今年、教区創立百周年に向けて、第二段階テーマ「教会へのチャレンジ」の一年目の年。公式テーマソングもできた。これから教区内に浸透していくことを願いたい。(ぎん)



(94)